

フィールド風

(現場)からの

宮田守男

2月は旧暦の如月。
厳しい寒さに備え重ね着する季節「衣更着(きさらぎ)」という説もあるので健康には気をつけたいものだ。

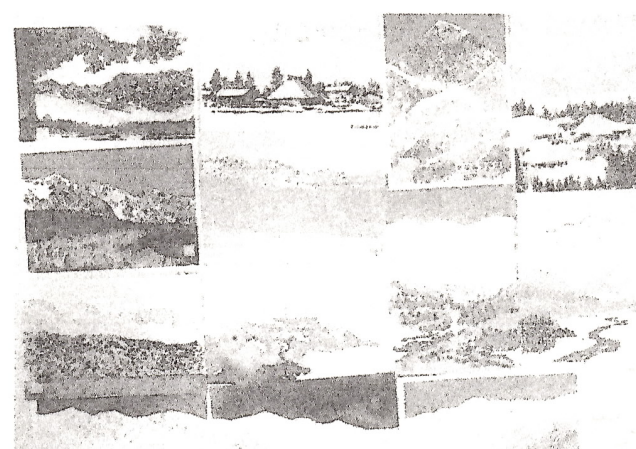
第一生命保険が入選作100句を発表する恒例のサラリーマン川柳。今年はコロナに関する句が目立つ。コロナ禍で家族と過ごす時間が増え「自粛中 見えた夫の 定年後」や「会社へは 来るなど 上司 行け」と妻の句には、笑えない夫の顔を想像してしまう。社会生活だけでなく家庭生活への不安も日毎に厳しくなってきたのだから。

不安な日々の中でも、これからの社会を考える事が大切だ

知事のもとを訪れ、村の窮状を訴えて迎えた週末、八方・名木山ゲレンデでは、スキーヤーの姿はまばらかと思いきや、予想に反して、ゲレンデ周辺の駐車場は満車で、誘導員が他の駐車場に誘導する活

いた年賀状住所録データがパソコンのトラブルで起動できなくなってしまった。改めて住所データを入力するが、難解な氏名の入力で苦労する。昨年ベビーカレンダーが発表した2020年赤ちゃんの名前ランキング。男の子の第1位「蓮(れん)」、2位「蒼(あおい)」、3位「陽(ひなた)」。2位「細(つむぎ)」、3位の「凜(りん)」。時代

代に流行した名にするのか、高齢者にとって、読めない名前も多くなってきている。毎日新聞のコラム余禄さんが、兼好法師が700年近く前に書いたとされる徒然草の中で「何事も珍しき事を求め、異説を好むは、浅才の人の必ずある事なりとぞ」と、考えをこね回して、才覚のある所を見せつけようとした名前を聞くのは本当にうっとうしいと。昔の人は寺名など物の名をつける時は「寺院の号、さらぬ万の物にも、名を付くる時、昔の人は少しも求めず、ただありの



毎年楽しみであった故松澤寿幸さんから届いた木版画多色摺の年賀状

ままに、やすく付けける時には、利用者や社会全体にとっても、次の時代にも語りつながら命名を期待したい。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)